

< 性能評定品 >

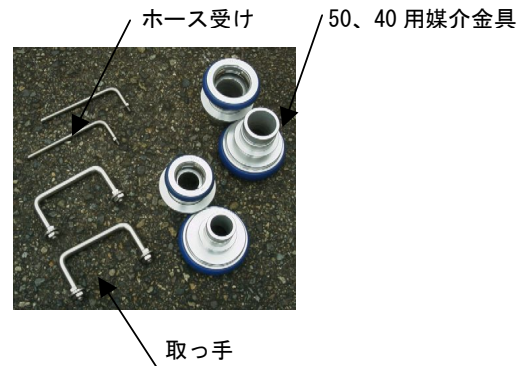
(財) 日本消防設備安全センター

< 実用新案登録済 >

型式 FPT-S3B

消防用ホース端末部耐圧試験機

取扱説明書



<安全にお使い頂くための注意事項>

- (1) **使用者の限定**【!警告】 … 消防設備点検資格者（第1種）、または、消防設備士（甲種または乙種の第1類）の方だけが使用して下さい。ホース内に高い圧力を加える試験機なので、取扱いを誤ると人身事故の可能性があります。
- (2) **移動時の注意**【!注意】 … 本試験機は「取っ手」以外を持って持ち上げないで下さい。
- (3) **用途の限定**【!注意】 … 本試験機を消防用ホースの耐圧試験以外の目的に使用しないで下さい。また、耐圧試験には水道水を使用して下さい。
- (4) **水損対策**【!注意】 … 試験に先立ち、防水シートやウエス等を敷いておいて下さい。試験中のホースから水が飛び跳ねて床を濡らす可能性があります。
- (5) **凍結の防止**【!注意】 … 本試験機は必ず屋内等の凍結しない場所で保管して下さい。配管内の水が凍結して安全弁等を破損することがあります。
- (6) **無断改造の禁止**【!警告】 … 本試験機の無断改造は禁止します。（無断改造の場合は一切責任を負えません） また、異常が認められた場合は直ちに作業を中止して適切な処置を施し、安全であることを確認の上作業を再開して下さい。処置方法が不明な場合は、購入先に御問い合わせ下さい。

<使用条件>

- (1) 使用圧力は、0.7MPa、0.9MPa、1.3MPa及び1.6MPaとすること。
- (2) 差込式の結合金具を用いた呼称40、50及び65の消防用ホースの両端末から、200mm以内の部分の耐圧試験に使用するものであること。
- (3) 安全弁の設定圧力は、試験する消防用ホースの使用圧の別により、0.7MPa、0.9MPa、1.3MPa及び1.6MPaとすること。

<補足事項>

- (1) **操作手順** … 試験機の操作は、PHOTONo.1~7の各写真に記載してある①~⑦の数字の番号に従って、順番に操作して下さい。なお、各バルブの呼称に関しては、現品に表示してあります。
- (2) **取っ手組立** … 「取っ手」は組立式です。添付の「取っ手」部品をPHOTONo.1の通り取り付け穴にボルトナットで取り付けして下さい。
- (3) **ホース受け組立** … 「ホース受け」は組立式です。添付の「ホース受け」部品をPHOTONo.2の通りタップ穴にねじ込んで取り付けして下さい。

PHOTO No. 1

① 給水

↓ タンクバルブを閉めて
タンク内に水を入れる。
ポンプのタンク (PHOTO
No. 6 参照) にも水を半分
位入れる。

①① 終了後の処置

↑ 給水バルブとタンクバルブを閉めてカプラをはずす。本体内にたまった水は底のキャップ部より抜く。

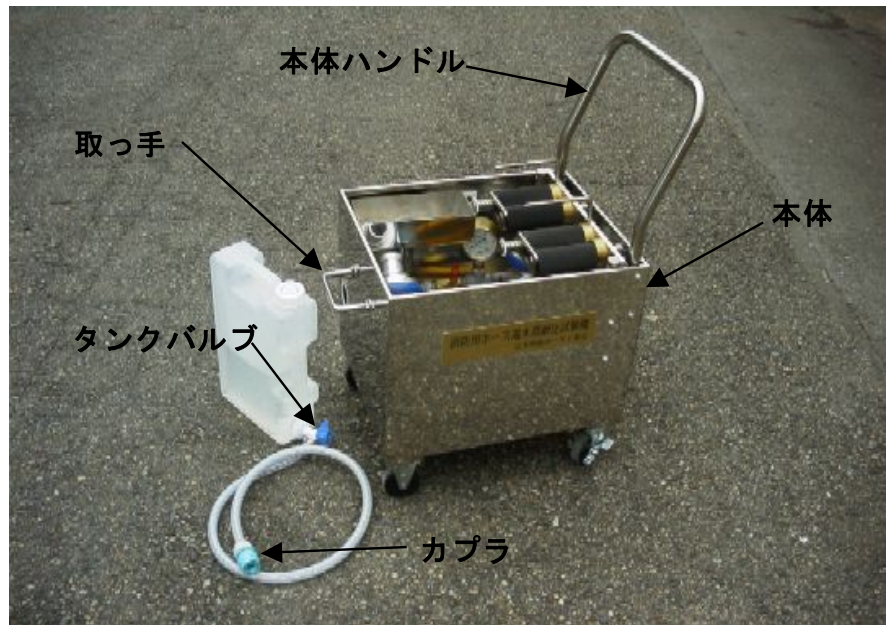


PHOTO No. 2

② 試験機組立

↓ 本体ハンドルを外し、
クランプハンドルを上向きにしたクランプ部をセットし、カプラを接続する。**本体ハンドル固定ネジは必ず緩めておく。** (PHOTO No. 8 参照)

⑩ ホース取り外し

↑ ホース内の水が抜けたらクランプを開き、ホースを取り外し、操作完了。

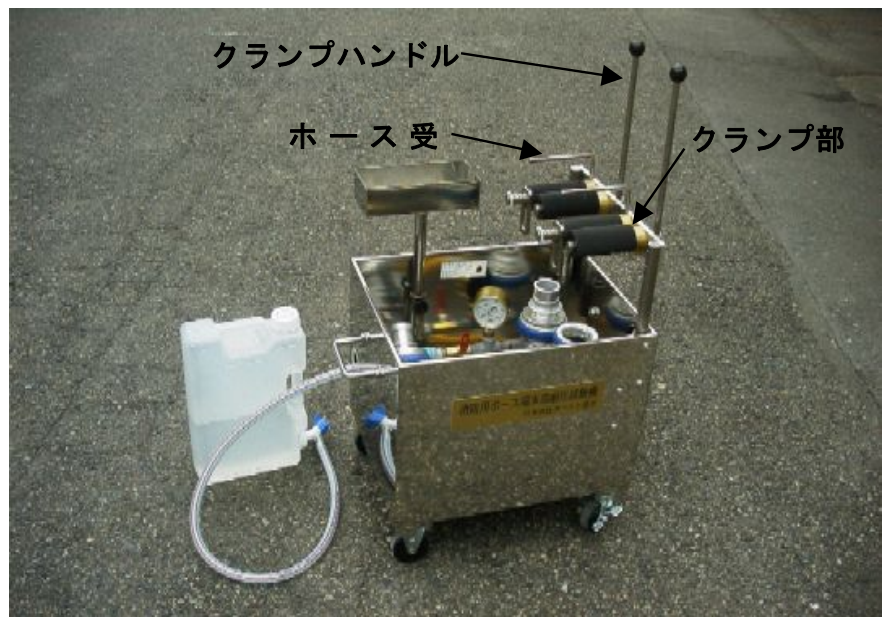


PHOTO No. 3

③ ホース取り付け

↓ ホースをクランプ部の偏芯ローラーの間に入れて金具を接続する。

※金具を引いて、抜けないことを確認する。

⑨ ホース内の水回収

↑ タンクを床に下ろし、給水バルブを開けてホース内の水を回収する。



PHOTO No. 4

- ④ ホース内給水
↓ タンクをタンク受け台に載せる、タンクバルブと給水バルブ(PHOTO No.6 参照)を開け、クランプ部の高さまで給水する。給水時、タンク上部のキャップは開けて下さい。

※タンク内の水面とホース内に給水される水の高さは等しくなるので、事前にタンク受け台の高さを調節しておく。



PHOTO No. 5

- ⑤ ホースクランプ
↓ **ロックプレートをセットし、クランプハンドルを写真の矢印の方向へしっかり締めて、給水バルブを閉じる。**

※ロックプレートとクランプハンドル及び給水バルブが確実に閉まっていることを確認する。



PHOTO No. 6

- ⑥ 加圧
↓ ポンプバルブと使用する安全弁のバルブを開け、ポンピングを行い試験圧力(ホースに表示の使用圧)まで昇圧する。

※老化して漏水する消防ホースは使用圧まで加圧する途中の段階で漏水するものが多いので、昇圧する間は特に気をつけ、漏水等があれば直ちに試験を中止して水損防止をはかる。

- ⑧ 減圧
↑ 試験が完了したらドレンバルブを開けて減圧し、減圧後は閉めておく。

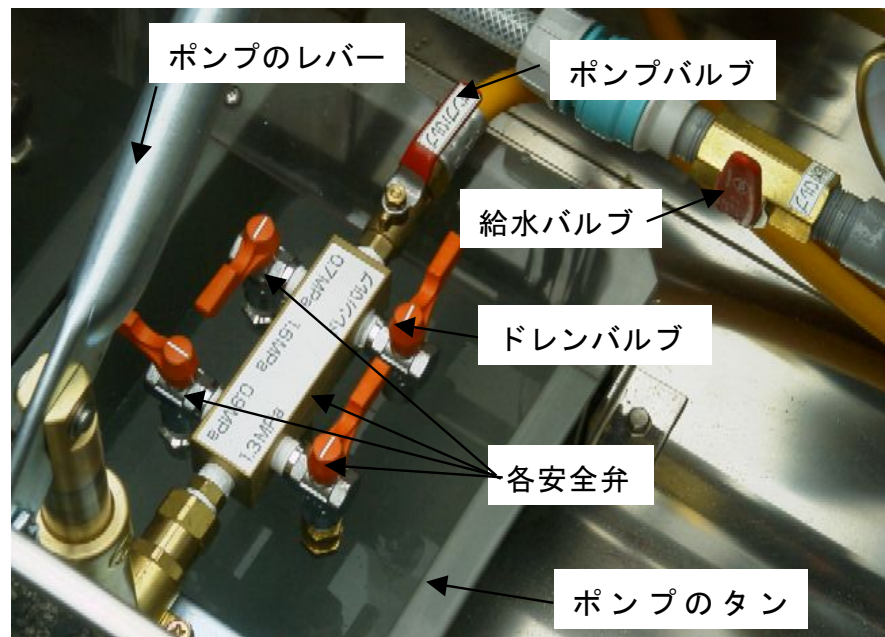


PHOTO No. 7

⑦ 耐圧試験

↓ 圧力計で試験圧力になったことを確認し、5分間試験する。

変形、損傷等がなく、噴水状の漏水または継続する滴下がないことを確認する。

※ホース膨張等で圧力低下したら時々ポンピングする。(ポンプバルブ閉で、ポンプや安全弁からのリークを防止できる)

金属配管の試験と違い、圧力低下で漏水の有無を判断することが出来ないで、上記の通り直接目視で確認する。



PHOTO No. 8

『収納方法』

- ・タンクを上下逆にして中央部に収納。
- ・ホースクランプ部を収納用の受けパイプに入れて収納。(クランプハンドルは下向き)
- ・タンク受け台を写真の場所(左上)に収納。
- ・ハンドルを写真の場所に上手く収納。



日本消防ホース工業会

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-5-13 日本橋富士ビル 帝商(株)内
TEL 03-3245-1777 FAX 03-3245-1777

芦森工業株式会社	東京防災営業部	TEL 03-3246-7302
櫻護謨株式会社	第一営業部	TEL 03-3466-2181
帝国繊維株式会社	防災統括部	TEL 03-3281-3032